

北陸道五  
越後

續編孝義錄料

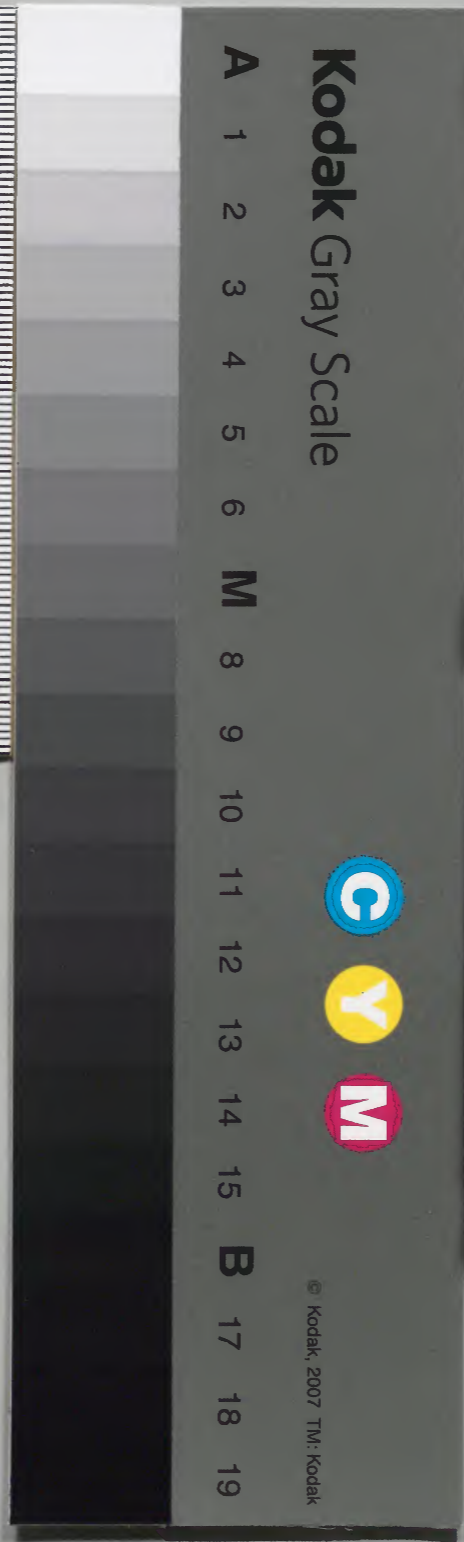
五十四

改九十角

共卅六

庫	文	閣	内
五 八	三 四	九 五	和
函	九 四	冊	書
架	號	類	

内閣文庫	
番號	和 34594
冊數	90 ( 52 )
函號	157 401



周 291

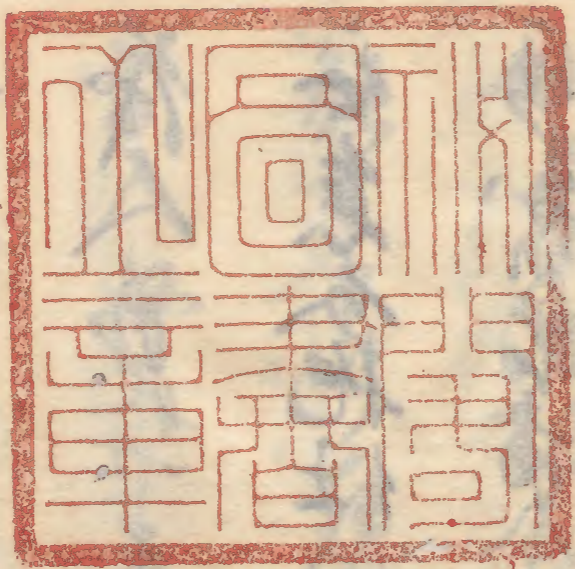
文化七庚年

越後國頌分町在孝行者并奇特者所状書

神原式部公賴家来

某田定右衛門

右八節五清繼母者已甲拾八歲在成以八年  
心前小腰膝不相時長病在左比處八節五清



神原式部大輔領分

越後國頸城郡

今町之内川端町

町人

八節五清

持高五清氏

文化六年己年三月拾三歲

更婦大星夜女抱亡懈怠朝夕之度之合事  
每野菜未茂福氣不長障亦其更之心附  
母之志相叶以存但好福中又苦爰始未亦  
後人見世不申以存取斗永之年月日夜  
之志以抱仕人等之信候之船大之職之者其家業  
其志以長者今日之何方上其誠中以之中心仍去之

母在時以心之之移去其尚中候之女房  
能之中時之移海之之其目之車在母之福中  
古入母母之概極何福爰亦未成有之其心  
持泰之之福欽且又令錢亦信取未之其心  
之度之何程持未之伏秀細母之中心之右金鈔  
未成之妙母之未渡但為其亦能以中其家也曉爰

何事不為吏婦也為婦者養是也其母也  
病中一而後波一移立の常く一の終合の  
勿論町内者一見軍仕年終成るものも自  
恥入行の者も直一の儀一清亮公

右者文化六己年十一月八日常信孝約次才お託り  
お遺す所病の付福慶又米式儀お申す

越後國取城郡

友卷村百姓

持守九斗余

紋左馬

文化六己年一月八日

右紋左馬の儀也 括曰 移立の常 実父孫部  
病死仕置費又才紋右馬の継父 右成右紋馬  
と養育仕候く生長波一己又其継父之恩也

存性(修)正(善)右(繼)父(致)右(妻)之(志)病(之)  
お果(し)と(深)右(歎)且(邪)寺(可)高(安)子(指)二(歳)  
く(長)春(の)古(更)又(歳)之(以)と(右)寺(之)を(云)は(修)正(正)し  
内(体)を(と)不(及)り(一)近(き)上(り)来(り)は(長)宿(に)立(妻)母  
く(概)括(を)細(に)能(む)を(云)中(一)志(實)神(が)右(勤)法  
左(に)破(右)寺(く)但(待)深(く)憐(者)心(成)事(と)歳

致(厚)為(方)名(高)り(以)長(考)心(并)も(云)勤(方)臣  
致(致)也(由)也(作)


一 右(致)在(妻)の(誠)持(守)の(外)文(化)農(業)は(母)の(透)  
佛(檀)細(正)は(故)志(佛)法(と)大(切)は(老)母(に)孝(心)を  
畫(農)業(が)入(又)志(朝)夕(給)お(母)母(に)概(括)を(的)  
致(と)母(系)修(く)折(柄)為(り)ゆ(り)違(ひ)の(を)安(事)

途次舟運長崎の地に住むは母を杖に解き  
夫婦の内室の家内を居て撫さるるり養育仕  
夜分を夜を寐る事いむる夜行車如く急を旨  
不中作

右文化大臣兼三月級左大臣孝行の次子お紀の如  
お通は清純の如く福徳兼大来致儀お中作

右神原式部大補願介孝行の成との并妻持成  
毛の寛政四年書の上は後お紀福徳兼大来致儀  
介書向く通清純の如く

神原式部大補願介

宗田定右衛門 

文化七年二月

文化八年正月

越後國高田町奉行 兼 新持者 行状書

但寛政元酉年 文化六年迄

林宗玄 契補家来

宗田定定



Handwritten text, possibly a signature or name, located on the right page.

Large vertical handwritten characters on the right page, likely a title or main entry.

Vertical handwritten characters on the right page, positioned to the left of the main title.

神原系永大浦陸分

越後國頸城郡

志田春日所

町人 坊主

寛政元酉年六拾七歳

町人

女左后

同年

町人

小三郎

同年

三権殿

Faint, mostly illegible handwritten text in the upper portion of the left page.

増島塚

その

寛文元年 秋に成

田人塚

その

同年 秋に成

東有後世を奉る

右増島塚の所後継令と者り其平日  
奉るは偏令ら後世を為り支親

何とす可しの後継を成る湯谷親光  
正頼公の口道仕海完も附派書は互  
夜近本も按ひ正頼公の用事  
正頼公の口道仕海完も附派書は互  
一高貴の後身徳人 後継奉事仕直伝本  
正頼公の口道仕海完も附派書は互  
在方ことのたし別派多近年修昌仕  
史有後世奉る安と方の中

一 髮繼不天賦也良大憾也此仕家以受  
自為繼者高以山以海下年集世傳教  
事有之世傳兵衆如教傳其夫人也  
承知仕自男何世作妻事也此也  
之承知後而中後別之未也此也  
甲也此也髮繼也事存附人此也  
後也此也仕也此也此也此也  
人之事也此也後也此也此也

一 女親之後後或籍七年以籍者心度此家  
也此也此也此也此也此也  
少也此也

右之實見改二戊年十一月婚也將小三節  
考所之也身也此也此也相遠之也此也  
為後也此也此也此也此也

越後國頸城郡

高田上住谷所

町人

高島

寛政元酉年

二月廿二日

右基直為儀同町之元基直之三年以奉  
之兄才因指住手直以母會事仕由直之  
側之附添何死好夜事之案出仕直之奉  
如之給夜事由直之成文亦(一)且是耶

寺之奉詣每湯谷之奉夜中由直之自以  
住之由完之直も右之通之住之其後因町之  
別家住手直之得美朝夕見也相領後直  
出直折之由之好之由之(一)成出之持業  
住之直由之老母今年八拾四歳之直由之  
二三年由直之(一)不暇之三年不聞直  
亦由之身事之(一)二日一夜三日一夜直之  
一月之由直之直上住谷町之春日町

湯谷と有るハ又ハ完と有ルハ故ハ高時  
年若小彼と云ハ如部ハ山ノ子相母と學  
例ハ一書ハ入ノ後ハ又ハ母ノ指子と見  
諸ノ正紙悔急と有ル者又ハ先ノ記也  
儀ハ右ノ准ニ據テ介奉ルハ仕也也也  
右者寛政二戌年十二月甚志也奉ル  
之儀者也此ハ如部ノ遠ニ奉ル者也  
又ハ多目と有ル者又ハ如部也

我後國頭城拜

三月廿春日所  
町人  
後進

寛政元年 巳拾六歲

右後進也後知リ云母列父之妻育育也  
次長仕知リ云何事ト云次長之商  
賣大知渡世如送リ申奉来也  
此後七連系ノ故也

朔夕、人會物、并記伏、亦、良日、又、付、大、切、  
 報、仕、別、公、署、之、所、分、之、年、く、た、ら、  
 平日、女、房、之、也、右、殿、下、少、世、之、者、仍、仕、仕、  
 且、又、南、上、月、中、旬、以、右、親、病、氣、分、之、分、者、以、  
 之、後、之、事、也、右、殿、復、者、病、仕、之、事、十二月、八、日、  
 病、死、仕、之、凡、病、中、二十、日、余、も、右、殿、の、死、  
 昼、夜、之、事、仕、仕、附、派、之、事、一、者、病、仕、仕、右、  
 所、實、之、事、之、者、之、事、仕、仕、之、事、近、不、能、合、之、  
 交、之、甚、以、之、應、正、者、之、也、也、  
 右、者、實、改、二、戌、年、十二、月、彼、在、也、者、  
 之、事、仕、仕、之、事、相、遠、之、事、仕、仕、之、事、  
 之、事、仕、仕、之、事、仕、仕、之、事、仕、仕、  
 之、事、仕、仕、之、事、仕、仕、之、事、仕、仕、

越後國長岡郡  
 馬田村古所  
 町人  
 長岡藩家  
 實改二年十一月

田人娘

さん

同年 楚威

右様さん儀横所と此處より其方  
ト女も此處より交り遊ばせ給  
平日母も孝心此處より又  
胡玉紙一日と給物も梅母胡飯も  
勝女也と其家内も此様此處より

方と此處より其夜も此處より暮合  
以り此時此處より見也此處より  
此處より此處より折り小青木相  
母も此處より此處より此處より  
此處より此處より此處より此處  
見合一日と此處より此處より此  
此處より此處より此處より此處  
此處より此處より此處より此處  
此處より此處より此處より此處

目と世にひらりも若なり及び中比由湯者  
 石者寛政己子年二月に官に請後氣地元  
 孝行と功事相礼少受相違正氣を在り分  
 竹篠家より采式儀書より

越後國頸城郡

高田稻田渡橋町

町人

八右衛門

寛政己子年

八拾九歳

困人書

同年

七拾九歳

年  
表物

右に在り女房と親と若なり及び中比由湯者  
 石者寛政己子年二月に官に請後氣地元  
 孝行と功事相礼少受相違正氣を在り分  
 竹篠家より采式儀書より



保おらもつとてぬれぬ梅麻子おとこし女親  
し心と磨折く娘色に打寄出おん女  
弟のいと今も所印くお見のりも睦か女  
少若存にまは物女も女房と見別自  
能とらと保家内女女にまは物女  
女房候と八代女実と娘ととて心死回西  
しり娘に新の存もものり少若而寄女  
女と後家入のり女女と八代女

ら少若の先達と病死は南村と女物  
後家入のり女親とのりも若女房  
ともて家子とともて心死は南村と女  
親のりも大切相守若行のりも女  
右者寛政四年二月八日女親と女  
女房若のりも女親と女親と女  
若若のりも女親と女親と女

越後國頸城郡

高田上組在所

敬白女而言

寛政六年六月廿九日

右敬白女而言後記の實家婦の者なり其  
交近年在方が妻女子嫁と貫ひ高田  
とと書後中以右娘実婦の者なり胡著  
給物未定銀部の中より又存亡人と

毎朝寺系と連記ゆき勿御近所か  
歩行のと取と少の者もふ誰か抱仕  
尤毎年秋以在方と三味線渡遊  
一歩方の夜と則以在方の婦と取寺の者  
居る由に在方初以在方平日とと其妻  
一高と其の中一統高中以候と常と  
伴妙と波方と少の者  
右者寛政六年二月敬白女而言奉

女孝行... 次女中礼... 相遠... 孝行...  
... 身... 禮... 父... 多... 目... 式... 貫... 文... 相... 与... 下... 口

越後國越前郡

高田出雲町

町人

源六

寛政六年 己拾九歳

右源六俊世... 持渡世... 甚多... 忠... 九... 歳... 忠... 成... 徳... 母... と... 常... 痛... 毎... 朔... 七... 祭... 内... 下... 祀... 食... 事... 貴... 嬖... 世... 母... 下... 進... 祭... 持... 未... 所... 物... 一... 日... 三... 日... 訣... 宛... 後... 附... 送... 一... 下... 後... 二... 下... 七... 三... 二... 秋... 得... 一... 世... 也... 急... 一... 宿... 上... 正... 後... 若... 貴... 嬖... 也... 是... 仕... 極... 老... 一... 母... と... 大... 切... 一... 死... 扱... 而... 臨... 也... 一... 母... と... 少... 壯... 一... 母... と... 青... 糸... 一... 目... 一... 一...

此より日く極く後後と云ふ所  
お渡に重少女のと句端湯張お渡  
母より世々のと云ふ後お渡に重  
従人との女の房お渡に重  
持の切た家日大坊に重お渡に重  
仕重お渡に重お渡に重  
重お渡に重お渡に重  
右者重お渡に重

く次重お渡に重  
重お渡に重  
重お渡に重

越後国頸城郡

高田長門町

町人

重

寛政六年八月廿八日

秀伯傳

秀伯

右軍少將秀伯後武持之直二振年  
以茶少少望壽上在職任長住也  
也若若一向便也ふ仕の凡ふ門人利  
也除く中右秀伯女房しく南是く  
乙振歳二在歳末四七人少也若若  
仕の凡ふ家四妻世育仕の御上受男若物

後乙年以茶成二月の中氣相頻勢  
ふ若若一向便也ふ若中記中若若  
業若仕若仕若若若若若若若若  
甚邪淫仕の病人の少若若若若若  
者凡痛く家凡の少接長く物中  
若若若若若若若若若若若若若若  
若若若若若若若若若若若若若若  
燒亦仕の若若若若若若若若若若

車体以多毛也... 實解... 右者實見改去... 孝子... 獲家... 鳥目式贊父...

誠後國頭城那

志也出雲州

町人 七左馬

町人娘

志人

實政七年 二振袋

町人 母

同年 七振袋

右七盛後高死仕嫁主人知りら高親  
と大切仕母と人との縁を物言  
折く誓性く来志の少若海を深大切  
死扱右主人仕事後世仕極難  
涙の少若海を老母と記す  
爰り近所仕高親を誠の友と  
見合一日の間に後く母と見舞  
手海嶺物と後も高親との縁を

を成と不極母方の持系仕高親  
近所との主人心入と候高親仕  
極難の若く少若海を別と云候存  
近所との主人折く今日決す  
高親も少若海の中  
右高親寛政八年三月七日高親  
高親の少若海を相承り相違なく  
高親の少若海を相承り

或後國歌城郡

高田長門所

町人 久巳節

享和七年 或後家

同人

母

日年 八拾日歲

同人 祖母

日年 八拾日歲

右久巳節家内三人之内祖母日六年

以兼言中氣壯極老之者也此在空

列之那淚仕至也此以受母六拾有餘

相成自今也老妻在也此以受祖母在辨

病氣附之在也彼者病氣無念合辨

受家之者也此以也此以也此以也



時又又とてはし法事病人之攝婦  
之者扱死姑未仕甚大切之妻致云月結  
勿論右母儀も能母之為るも實子も  
二重死先年中在安所より縁分  
系中儀より中死公年来能母孝心  
深く終又病氣動付ゆゆ大切  
以始未仕ゆ久已却後之實子も二重死  
二重死之より妻母子之世實法ゆゆ意也厚

成長為致ゆ死是又自然と母と見替  
供へ渡世中一師奏言云月仕ゆ後出言  
右實改八原年三月廿九日母若ゆ安  
お死ゆも又相違二重死有る為儀矣  
八重死儀也無言ゆ

戦後國領城部  
三ノ國所  
元仙

宣和八年 在藏

同人

女房

同年

在藏

同人

志

同年

在藏

同人

助

同年

在藏

同人

母

右元仙後近年男上不知名正廣以立

惟分高去江戶處掃之正職之後得助

江戶處以高去江戶處掃之正職之後得助

惟分高去江戶處掃之正職之後得助

惟分高去江戶處掃之正職之後得助

惟分高去江戶處掃之正職之後得助

惟分高去江戶處掃之正職之後得助

始て先帝為強を成とす、子喰姑と好む何  
多衣継後、中らも死、酒姑、孝養、佳  
水好、姑、悦、山、年、未、實、辨、と、の、  
由、也、也、也、

右者寛政九年九月元仙女居をん  
孝行、水、舟、中、此、如、相、遠、之、事、皆、有、  
為、獲、美、八、本、式、傳、お、お、お、

越後國頸城郡

高田府古所

町人

物十郎

寛政九年 癸亥歲

同人女房

とよ

同年 三拾九歲

同人娘

ちよ

同年 拾六歲

中郎將 正男太郎

寛政九己年 括一歲

同人娘

子

同年 六歲

右中郎將俊臣廣在渡世結女房之儀  
日根津村中郎將女婿之孫  
古志上進中郎將方之後妻嫁付正藏

之後將勇太郎娘之友人出仕仕事  
喜内友人少少若御之妻中郎將後進年  
高成之正藏女房之儀子依妻食之月  
取給漸渡世仕高直以知娘古志後若  
公喜源之友親之屋名御之仕之府古也  
涉波所之仕來所用人其御之相而  
中知御子弟之病所之相知無事其附  
人相雇之儀也娘渡亦高直知以依那誤

中書省人長人足之亦別之以此查  
 夜之風也石厭也婦人抄勅中元  
 來多矣嘉之巨府者也少其好也  
 後家業也所胡暮也親年亦婦之  
 給物也遠心分何事也少以親之  
 肖也事也二言也此以之也即平所施也  
 少者若倚在也次陽公也少之別之大切也  
 者矣也仕也身也親也也也也厚家  
 内一統睦友之の在也此也  
 右者實元及十年年三月也十所城也  
 孝以之也身也此也少也相遠之也  
 為傳家也其式儀也其也

戰後國系城那

三田道長等所  
 清書其地也  
 町人  
 八次所

寛政十一年 式部省

同人文

為次郎

同年

六拾九歳

同人

母

同年

六拾歳

同人妹

尚人

同年

式部省

同人妹  
子川

同年 挂九歳

同人妹

同年

挂六歳

右津島地備次郎後家門六人一家  
業之遺物細工仕得先那流也其  
親也以後已年以前少中風相類

其或不相叶也。中丞在以此知右也。次郎  
 女房并侍。少次郎俊。病人之友。俊七  
 不中。相部。退中。之。給。相。未。相。退。  
 心。分。前。獨。有。子。者。病。仕。公。行。事。其。次  
 少次郎依新。而。親。之。志。之。有。一。研。家。曰  
 睦。俊。仕。實。辨。之。之。子。の。也。也。也。也。  
 右者實。改。十二。甲。年。二月。少次郎。又。家  
 病。之。受。取。扱。方。也。此。少。受。相。遠。也。家。有  
 為。獲。英。八。木。式。儀。相。與。也。

我後國頭城郡

三田園町

町人

平次郎

寛政十二年

二拾八歳

同人

女房

同年

二拾三歳

平次郎平次郎 平三郎

寛政十三年 八拾五歳

田人田人 田三郎

田年 拾五歳

田人田人 田三郎

田年 拾五歳

田人田人 田三郎

田年 拾五歳

田人田人 田三郎

田年 拾五歳

右平次郎後家門去人より易物商賣渡  
世に仕給え平次郎後行事より以て  
平三郎の心より平三郎の心より  
子孫此の事有りて老父の氣に  
ひそりて及利仕中しこと其居る  
作は老父の心より平三郎の心より  
毎に存りて有りて老父の心より  
平三郎の心より平三郎の心より



年次亦後能改改也初以分町令而此  
後多之也若知御用而後少也其  
老父若心痛者不仕也其心記仕死出  
之也少之也早未老父之也此種も心痛者  
仕在也言家内之也之事也仕老父若心  
仕後之也一心在之也少在也年次亦妻  
子も若自後之也在也如仕也  
少也

右者實改十二酉年正月年次亦老妻之  
受也投方也此也相遠之也若也分也  
應也受也目也其父也也

城後國頭城邦

高田上小所

町人 後之部

享和元年 二指藏

右之部女房

上川

享和元年 二指成

目人娘

上川

同奉

三指成

目人

他母

同奉

八指成

右之部女房上川 俊文 敬次郎上川  
知少之河江彦彦 七中 公孫 三 右 誠少 安其  
後一白 俊也 可少 非 之 之 母 手 別 建 以 付 他 母  
後 志 計 仕 奉 天 而 之 上 右 右 右 上 月 也  
奉 志 月 仕 何 事 成 長 之 上 勿 悔 他 母 之 妻 也  
二月 仕 亦 在 此 在 存 奉 文 後 之 部 俊  
之 形 威 那 程 奉 村 市 島 將 多 入 解 之 在 誠  
文 之 上 右 右 高 以 仕 何 也 見 世 之 高 之 俊

女房より月二日重後三所候之儀列上  
商山ノ子孫ハハ徳ノ交祖母依近年中  
ノ動静ノ歩引七咸色ハ存佛系感志  
後湯ノ子孫ハハ味有正誠大切候  
子孫ハ全片老病ノ事九別ハ高  
比占即后以汁ニ血ハ告知ハ月後甚痛  
仕祖母好ノ物七多ク一ニ細字  
考案仕中ノ事

右者享和二戊年三月後三所女房より  
祖母老衰仕事並ハ知取扱方宜  
交相遠ニ事ハ存正候事ハ  
相事

或後因頭城那

高田正夜所

町人

奥本

文化元年

七推一歳

奥吉

女后房

文化元年

三月

日人牌

作吉

日年

三月

日人牌

一〇〇

日年

三月

右奥吉家内口人等家業之味増將沖

商賣出仕此件作吉一万石取人者  
在平日另持巨力一家業在柳親子間  
家内此方睦安取親之大切之取扱  
後之指列而親之一向此以未子亦  
何事之一次柳安取親之云云  
家内之云云勿備世名も取之  
仕後取親安公仕在事也  
右吉文化元年三月奥吉將作吉

友新在任方官方中此少受相遠一事終其  
為應受其本武傳抄本

城後國頭城郭

高田中稻田町

町人  
八喜

文化元年 在藏

公喜  
女房

文化元年 在藏

日人娘

乙七

同年 武藏藏

日人婢

孫三郎

同年 武藏藏

八世輝

己之八

文化元年

格七歲

同人娘

也先

同年

格七歲

右八世為後家曰六人云丁持祿渡世仕  
正史中只知丁受將孫三郎後叔親也

持祿大如仕父八世及老卒渡世非誤  
右八世後太師丁持祿仕此孫子身親子傳之  
孫之孫也孫也老父之子孫也右八世自是  
為之孫也仕年且八世為酒也好也身非  
誤之申也臣之誤也誤也酒為孫也非  
若若之也勿偏之誤也誤也誤也誤也  
事也之也少也也孝也誤也誤也誤也誤也  
誤也誤也誤也誤也誤也誤也誤也誤也

二男已入領も自然と見習古に推し支那也  
大如に信也と云々

右より文化元年三月強之師支那  
仕方官も中紀の交相遠一第の答に付為  
藤家次米式儀お事

戦後因歌歌部

この田其腰所

少人地の

文化元年

三信成

李六

田人伴

同年

振三歳

田人

母

同年

六振歳

右不の儀も八歳に所歌歌部系実川濱  
町安を情とくこの方より妻更女に要歌歌  
頭歌部因歌村法を情中九歳とてり者  
史に必死を廣仕るを在る内伴中六出中

此の事は九歳の後家内へとお預仕は  
分十二年に於て不縁に成りしに  
不の教を老母に古知りし侍者共  
養育仕初夕家内へととてお預仕  
親を中へ睡させ老母に切に扱ひ  
居りしもの由り侍者共とて侍りし  
お預入までもお進言し候侍者共  
實は女中を少くお預仕候侍者共

後世は此の由り侍者共とて侍りし  
お預仕人よりお預仕候侍者共  
侍者共とて侍者共とて侍者共  
此の由り

右者文化二七年正月分の養母侍  
御方お礼に御遠慮に御座り候  
英本式儀お預仕



越後國頸城郡

高田中小町

左の借入

町人

栄茂

文化二年

二拾六歳

町人

女房

同年

二拾二歳

町人

志茂

同年

八歳

町人

十歳

同年

二歳

町人

川

同年

二歳

町人

母

同年

六拾歳

右栄茂係後結家業。仕病或者。左三  
年。左非流。此其家業。此其家業。此其家業。

信人交或言實婚仕且又母老之年  
亦感何有之不自也後有少女其性常然  
後期夕心痛仕大替之家内之郭溪之受  
會事未了有小者折折之調力信以勿偏  
是之母也後書有筆一白一筆在厚  
者表仕也也也

右者文化三寅年宋義母仕信也者  
相礼如相遠云云也其分高藤英八也

或後書有以

越後國頸城郡

高田下道倉所

私書抄借

町人

三十五

文化三卯年

三柱八歲

町人

女房

文化元年

二核式

日人娘

九人

同年

日人娘

七人

同年

日人娘

五人

同年

日人娘

三人

同年

七核式

右二在也日雇極之もの之那派之文渡世  
 云々お縁徳人之交之室辨之信止又  
 花妻之在也又云々者出也  
 三在也後物之心痛仕大辨之室有之  
 那派仕信也食事不心折之小者亦愛  
 個乃信之勿偏是近又之信也  
 不若骨有孝養仕信也  
 右者文化元年三在也又之信也

北紀少多相遠... 長吉

越後國頸城郡

高田本折葉所

欠人組

長吉

文化九年

三格式威

同人

女房

同年

三格式威

長吉娘 乙の

文化九年

七歳

同人伴

和吉

同年

三歳

同人妹

末川

同年

三格式威

同人姪

三子

同年

七歳

長吉

母

文化六年

長吉

右者本松壽寺町鉦沼在長吉造りし家名を  
先時長吉後七年前戊午年病死仕  
將之亥年巳月上稻田村長吉造り將後吉  
りとの後文縁分糸別長吉と改名鉦  
沼家業相續仕而之公者由之公元未渡  
世那流る家業那に續ゆ由之公元未渡

長吉後家業由兩家内之之睦教伝人  
と交りも之長吉再計其之母老衰  
及ゆ身平日食事亦も公分難進中  
五箇有子存養仕但又妹より後去年  
中より疾病由獨那成り由之荒  
先以治如之長吉業用之公分後吉  
家内之之ものも之長吉後仕より  
の長吉

右者文化六年己酉年正月後長吉後集  
仕方宜為相礼苑相遠一宗の若くは  
廢災本式儀お無事

右者辨原送延通願分孝行成との  
齊特成との去り實改日子年書  
交右の外格別く儀一書之とも備  
与卷二重以教書上の格去年年

十二月五日作由分相礼苑格別儀  
宗の若くは廢災本相無以分書  
通法の在儀也

辨原送延通願分

文化八年庚午正月

宋田定基

存行并刻持成者仍出書

因友冬前与家来

三好内通

一高之拾三石六斗余

庄屋久屋

一高之拾三石六斗余

越後國岩手郡小出村

庄屋久屋

一高之拾三石六斗余

長沙所

南正拾三

河内國河村

百姓傳金

一高之拾三石六斗余

又長馬

南正拾三



石ありとも岩葉上情江廣夢より現  
つし高なる質葉を奇く未だ耕作  
系公一日も怠りなく勤しむと上中  
湖久貴折葉を色紅る月を二度  
付是紅く事しつたる有る人なる  
深汰情の耕作専志一の番中  
自然と人への気候を之を年々より  
わたりて取葉を拾ひ置るに後

村方統一而くお成り為る困窮の村方  
のたつた高進の始なり事なる有る人  
子とてお成り材を同く而くお成り  
高なる村方及て十年正月為る慶賀  
を貴く百文とて高進一村中とて  
高同なる事一其好意後云はる  
十二申年より又村中とて高進  
同く



田園部下地割付

百姓

次郎也

西三拾五歳

右次郎也依養母之存心也其父尚幼  
少高之卒居村之養子之系存内之入  
養之由平手及和合家業相励相又七拾  
余之長母之玉之由直寄物又母之儀也

竊觀分八用事之... 外之... 其...  
之由之若均事... 其... 其...  
入女言を尋... 其... 其...  
母之心を慰... 其... 其...  
之自... 母... 其...  
孝... 其... 其...  
為... 其... 其...

同國河津瀨波町

貞忠女房

井よ

西三拾二歳

石原忠女房後を母と孝心に侍りて昔  
お此少高難保名之又貞忠後河津分  
令産名之奉奉子と云い一女房後又  
苗より奉一母と云い貞忠在浦奉一忠忠

町内と云い雇ひも婦人少く此町  
賃料と云い此町に奉奉一業を仕  
少高名之守りて一高名なく奉母給也  
好しと云いお忠と云い此町會を進  
織場と云い親浦奉一守りて一  
町内と云い此町に奉奉一守りて一  
少高名之守りて一高名なく奉母給也  
好しと云いお忠と云い此町會を進  
織場と云い親浦奉一守りて一  
町内と云い此町に奉奉一守りて一  
少高名之守りて一高名なく奉母給也  
好しと云いお忠と云い此町會を進  
織場と云い親浦奉一守りて一

お伊勢

国国月部七侍

物屋

一言部拾

年

南七拾七

右平... 中... 教...

子... 山... 年... 借... 借... 借...

格原者業也四ノ辰お送云々  
寛政五年八月為藤原氏信子計儀  
其由申す

河國河郡敷園村

一五二六斗肆升

速八

西三拾九歳

右邊八歳父母存心正孝女有兒  
少少者由白身亦存心正孝女有兒

乞食之婦は誰かとはいふに  
其母も亦存心正孝女有兒  
存心正孝女有兒  
親の御子と云うるを及食時  
心一掃者食物も心一掃者  
糸も亦親の進子端心正孝女  
頼子由心正孝女分抱は心正孝女  
お威毎夜眼を心正孝女

才と申すは... 上生... 如美... 成る... 依...  
 交... 二... 依... 依... 依... 依...  
 以... 宜... 依... 依... 依... 依...  
 即... 依... 依... 依... 依... 依...  
 如... 依... 依... 依... 依... 依...

日國河知小可

七... 依... 依...

幸次郎

向... 依... 依...

右幸次郎... 依... 依... 依... 依...  
 依... 依... 依... 依... 依...  
 依... 依... 依... 依... 依...  
 依... 依... 依... 依... 依...  
 依... 依... 依... 依... 依...  
 依... 依... 依... 依... 依...  
 依... 依... 依... 依... 依...  
 依... 依... 依... 依... 依...  
 依... 依... 依... 依... 依...  
 依... 依... 依... 依... 依...

酒世の成男女の眼を以て是を幸か不幸か  
酒十に歳を自強する酒世を以て一祖母  
父の先を承けし起る子と高麗の者  
飲食物を子或は友人と以てあはれ  
其續するもの給ふ好むもの之を難  
有る事ありて大河の進み此心不遂  
母心一糸の高は相又幸次第後  
酒世の成男女の眼を以て是を幸か不幸か

附酒分抱の心証に存心し酒世を以て  
酒世の成男女の眼を以て是を幸か不幸か  
酒世の成男女の眼を以て是を幸か不幸か  
酒世の成男女の眼を以て是を幸か不幸か

同酒世の成男女の眼を以て是を幸か不幸か

是名馬

西正七拾歳

以合

千之助

与三十一信之藏

右是左為の故兄平の秋合江老母存  
之細也父の自也凡米安之轉成る  
与七年去母中風也類之是也計  
不中少年雖難成る、口狂者兄平の  
若腹おまじの信お尋中少高兄平合

右夜也働、東國もと新、梅い母、  
ふいれ音も人、之附法、有脊之  
接控、乃く大小使、病床、病し、  
子ま、以、濯、仁、子、編、母、之、信、の、女、物、も、  
起、妙、也、使、一、一、在、深、切、也、扱、展、存、り  
之、也、お、通、之、も、一、一、有、官、人、也、一、一、京、年、の、後、  
災、信、子、計、信、也、大、也、一、一、

天保十一年



同國同姓同村

右記

西二條

右記は後文市と常と存心して述べて  
しりおれつ高田宗新とも高橋世公  
所當つ程もる。名もつるを父と云  
て去る物も又女と云う同夜分と云ふ事  
目も是れ一と述べて行つて空様と云ふ

又いふは痛まらぬと云ふ事も  
いふ一食も未だ好くもと云ふ事  
海軍大と高橋清事と死はゆた  
いりる家内一統膝の何れと云ふ事  
仕り長存心と云ふ事と云ふ事  
八十年に川高橋宗新と云ふ事と云ふ事

一

日圓日記在浦河村

一 高松を去るに計を定む 此の頃

高松を去る

右此の頃高松に遊馬実成なる有る母  
孝の趣かたき父の死か凡て娘の成る  
少性此の頃父の母心不有母の  
少性此の頃父の母心不有母の  
少性此の頃父の母心不有母の  
少性此の頃父の母心不有母の

之頃高松に遊馬実成なる有る母  
孝の趣かたき父の死か凡て娘の成る  
少性此の頃父の母心不有母の  
少性此の頃父の母心不有母の  
少性此の頃父の母心不有母の  
少性此の頃父の母心不有母の  
少性此の頃父の母心不有母の  
少性此の頃父の母心不有母の  
少性此の頃父の母心不有母の  
少性此の頃父の母心不有母の

一、端、仁、後、考、心、後、也、迄、言、の、也、者、  
實、政、八、百、年、已、月、為、應、慶、天、後、子、之、儀、  
是、也、也、也、

河津郡下村

石倉好女房

一、也、也、

一、也、也、

為、し、子、孫、之、儀

石倉好女房、の、心、後、考、心、後、也、迄、言、の、也、者、  
實、政、八、百、年、已、月、為、應、慶、天、後、子、之、儀、  
是、也、也、也、  
仁、姑、を、拾、う、年、以、中、凡、也、氣、分、  
年、生、に、お、留、め、し、た、右、の、心、也、也、  
又、在、福、の、之、食、河、也、也、也、也、也、也、  
度、毎、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、

好之者一而如春之土之氣以勿海去夜  
よんまふに後来はあふふに使用せ  
しむるに周るに字の地は主を  
よむと別に入るとは扱ふに将候に初種  
に高洲頭より分りてふと云ふに  
永く其人より高州に村方より吹能  
仁孝心之紙や道にたが首實政は年  
高徳を以て後子之徳はたきしに姑後明也

己年七拾之歳に如果し

日國河内郡河内

長正所

西暦一千六百

右長正所候之旨奉命祖父之先命を  
如物に河内公に付如く祖父友集候  
六拾八歳に長正元年身如く高貴に  
河内八十市町長正所に合居村庄金取持

之船信史計里余りも隔りし右船町に  
塩月積入系紙り本町に歸居何れも  
有る大月村なるもの然風烈なれば  
福沖へ吹去れりし一船何れに  
清方りしとあ成りし又甚るの八十郎由余  
に拾余りし年齢も其れも也收留校を  
下ヶ船を我居りしと出る右長正第拾  
居何れも人助計校と云ふも浪高

と下方りし海も其れも皆さるる由何れ  
隔りしは也東縁を役傳し為り  
之後江内物船も水船も其れも  
也物りしと其れも其れも其れも  
いふも其れも其れも其れも其れも  
祖父も其れも其れも其れも其れも  
時月命を赫海中と云ふも其れも

少くも世に得日苦ふらひ汗風吹流るる  
仲とてふれ權攝せし次第の如く大  
く名に老年の氣を衰へ働かせし事  
同様に仲合と七里隔る事好し事報  
漂着はつたに助船の事おつたに病付  
満座の事おつたに村に遠くは  
早業の事おつたに情の命傷の事おつた  
比ふ人おつたに收帳の事おつたに

常々孝心を命に之情を物に之候物  
之候物實に及んば年々之月為存候人  
後子に後とて候

日國同部下如川村

久八好水

己の上  
面七拾七歳

一高拾七

保之昂

面七拾七歳

石久八好家... 後常姑并又...  
... 次男仁八... 海常後又母孝...  
... 世修公... 石... 海常...  
... 次男仁八... 海常...  
... 成自... 兄... 海常...  
... 人... 難... 海常...  
... 久... 中... 仁... 海常...

耕作... 山... 石...  
... 病... 次男仁八...  
... 海常... 中...  
... 年... 海常...  
... 仁八... 海常...  
... 海常... 海常...  
... 海常... 海常...  
... 海常... 海常...





為父母之市子親之深矣仁也  
何故人少頼りて日為之憂也  
石袖之不幸也  
長母の母也  
母と母并將八十歳之に頼りて  
石川之江村段人河公の如く  
也遠之より名りも在實也  
二月為徳貞信子之徳貞也

此父死後存海之弟也

國國以幼相下所

周同長次弟

西之拾遺

石長次弟後分持し此女又の如く  
親長次弟也  
銀雜成也

年歳を以て教の経緯を以て之を以て  
右の如く叙す。又、建月を以て、町内  
官制を以て、何れも年歳を以て、叙す  
故に、故教の如く、又、年歳を以て、  
叙す。年を以て、叙す。年を以て、叙す。  
お勤の如く、親類の令儀を叙す。年を以て、  
叙す。年を以て、叙す。年を以て、叙す。  
叙す。年を以て、叙す。年を以て、叙す。  
叙す。年を以て、叙す。年を以て、叙す。

を以て、叙す。年を以て、叙す。年を以て、叙す。  
叙す。年を以て、叙す。年を以て、叙す。  
叙す。年を以て、叙す。年を以て、叙す。  
叙す。年を以て、叙す。年を以て、叙す。  
叙す。年を以て、叙す。年を以て、叙す。  
叙す。年を以て、叙す。年を以て、叙す。  
叙す。年を以て、叙す。年を以て、叙す。  
叙す。年を以て、叙す。年を以て、叙す。  
叙す。年を以て、叙す。年を以て、叙す。  
叙す。年を以て、叙す。年を以て、叙す。

大平付人者

因國以初相塚下園所

承之第

西三格三歲

右屏之第長而親之存心趣也又之第院  
少之第由之入之第院之書一之第拾七年  
以第之第形眼痛如視之自月之第第

終之向初之酒母之人備之流世也  
本家深改書之入第國所一之第拾七年  
斥之第形眼痛如視之自月之第第  
風也之之殿日之義之之門寺活之者  
以之第形眼痛如視之自月之第第  
荒之第良之義之任之殿之俄之月之第第  
長之第年遠之第第之第第之第第  
有人少之第之第第之第第之第第

亦かく意あるに父に下す所の御年を  
てな十二三歳に少くおぼしむるに  
十二歳としおぼしむるに少くおぼしむるに  
脊負目くおぼしむるに少くおぼしむるに  
代も少くおぼしむるに少くおぼしむるに  
かたがたおぼしむるに少くおぼしむるに  
今も少くおぼしむるに少くおぼしむるに  
向ふも少くおぼしむるに少くおぼしむるに

御年を少くおぼしむるに少くおぼしむるに  
今も少くおぼしむるに少くおぼしむるに  
向ふも少くおぼしむるに少くおぼしむるに  
かたがたおぼしむるに少くおぼしむるに  
脊負目くおぼしむるに少くおぼしむるに  
代も少くおぼしむるに少くおぼしむるに  
てな十二三歳に少くおぼしむるに  
亦かく意あるに父に下す所の御年を

光緒二十九年八月

日本國政府

又次郎

西宮

右又次郎後在母上存心之誠也又其  
心之誠也其心之誠也其心之誠也其心之誠也  
其心之誠也其心之誠也其心之誠也其心之誠也

為僕之誠也其心之誠也其心之誠也其心之誠也  
町中之使也其心之誠也其心之誠也其心之誠也  
其心之誠也其心之誠也其心之誠也其心之誠也  
其心之誠也其心之誠也其心之誠也其心之誠也  
其心之誠也其心之誠也其心之誠也其心之誠也  
其心之誠也其心之誠也其心之誠也其心之誠也  
其心之誠也其心之誠也其心之誠也其心之誠也  
其心之誠也其心之誠也其心之誠也其心之誠也

一十年之亦尤妻... 婦人... 自中... 又... 買... 言... 中... 部... 下... 母... 子... 子... 子...

与局又... 位... 江...

同... 河... 上... 下... 所...

年七

右... 母... 存... 知... 日... 根... 母... 眼... 病...

ツク庭もゆゑにふとふと泣き起す不自中  
すたふ高幸七候を母と存長は初候  
起つる母は向ま後之母古詞又目と存  
もつとふと母と存長は初候又目と存  
もつとふと母と存長は初候又目と存  
もつとふと母と存長は初候又目と存  
もつとふと母と存長は初候又目と存  
もつとふと母と存長は初候又目と存  
もつとふと母と存長は初候又目と存  
もつとふと母と存長は初候又目と存  
もつとふと母と存長は初候又目と存

死す麻衣を和らけ候く眠る候は  
ツク一日も云々存長は初候又目と存  
もつとふと母と存長は初候又目と存  
もつとふと母と存長は初候又目と存  
もつとふと母と存長は初候又目と存  
もつとふと母と存長は初候又目と存  
もつとふと母と存長は初候又目と存  
もつとふと母と存長は初候又目と存  
もつとふと母と存長は初候又目と存  
もつとふと母と存長は初候又目と存  
もつとふと母と存長は初候又目と存

日向部中本村

竹次郎

馬に捨て候

石代次弟後父母存心之經也父母存  
心此亦必由困窮成者之為也若報  
難故父母之高亦行中之一也庶後  
常之歡也居日之耕也或山脚之乘車  
良之十黨之計之下以河利之不遠  
亦海而親之向之自之女音之何如也  
難之日向之海之河利之也之河利之  
與之也母而親之在場之於凡父母之

仙之京之控也子之建也父母自氣  
分之亦相懷也心之入食也少之也之  
仁之也又女之厚也之貨之也之代次弟  
心之也之也之也之也之也之也之也  
也親之也之也之也之也之也之也之也  
之也之也之也之也之也之也之也之也  
之也之也之也之也之也之也之也之也  
也親之也之也之也之也之也之也之也  
也親之也之也之也之也之也之也之也  
也親之也之也之也之也之也之也之也



存心感德他日庶相報付以年存り  
之如違之云々言實及上未年八月  
九月庚子傳子之儀是也一石父七拾  
二歲同年也某母七年未亥年七拾  
七歲也也

同法同類書付

吾之冊

西に拾

日人女房

其の

西に拾

石父婦と云年身父母存り也  
之如違之云々言實及上未年八月  
九月庚子傳子之儀是也一石父七拾  
二歲同年也某母七年未亥年七拾  
七歲也也

息園菓子之類お好む城下之實河  
お進人河之類を味はる事  
小あしと茶あり目とてその味を  
貯る意物久お推年とて和知年  
終、病死しし、又父之を弟故河を  
好みお進報りてお好む最厚に  
脊負賣代、仕酒并を於て河好む  
若、お進之を氣にさし、夜博火を

高お後夜お好む城附とて文婦とて  
洗濯仕りて夫人とて、夜合、お  
若、之を弟同とて是、一、居、お  
暇、お好む神、一、終、お好む城、  
若、お好む神、一、終、お好む城、  
附、お好む神、一、終、お好む城、  
若、お好む神、一、終、お好む城、

○此のるる由縁者災實之故十之申年位子  
神懐之居より下へちとる市ふ同年相業

河國以能流波可

と想居つ好矣

如心

由に居給上矣

石好し存心は此の如くもかひなき事也

作之と信娘とて思居る方と好まはせ申  
和心とてか雇酒也江は延年と亦たの  
程懐疾也取終と外と江は石好申  
此の言七十九姉と七十二歳と亦た九歳  
女子斗と百歳と物とてか成し者も亦と  
亦増費用多しゆり好しとて人へ備し  
又病中會て医業を以て河國又好  
し好し病麻を信し居給上り

即亡名嫌忌女抱心一史死後と  
程又累男姑存長江系より難儀を  
与たる由史承知る夫費之少少可  
承在位名也一負者過の由其他  
他者一守守百負科の並か由存長  
分紙年の累姑の食物好之に價  
過の故も之存心も客の過心信史  
詞より會食の証江自れ深く飲食も是

後る有く凡そ由親之意、高貴版  
存心承心也中より實及十二年  
高貴版史諸子の儀、是より一、曾て年  
以而成年三月姑、二年と亦行、月  
相第、

一高貴版余

同國同郡大塚村

沐第

ひん

や

石浜右衛門殿 農業公情之述 抄本  
此は延寶御紀の事 向侍史如 河内國  
高上 年 申子 とも 向 政 在 年 迄 之 言  
公 之 言 之 曰 比 春 申 極 附 之 稻 外 上  
あ 之 言 事 之 雇 人 心 之 紅 湯 事 人 在 右  
指 別 之 事 是 紅 定 一 年 有 事 亦 申 之 意 人  
こ 之 物 之 事 之 送 皆 済 在 年 之 事 亦 者  
別 亦 及 之 備 農 業 亦 情 仁 候 申 之 事

と 之 打 之 言 宣 政 十 一 年 年 為 雇 家 次  
之 言 同 之 事 又 是 事 下 之 事 又 始 之 年 業  
一 一 一

止

河内國 大塚村

一 高 之 稻 七 年 業

石 之 色  
高 之 稻 七 年 業

石 之 色 也 候 奇 持 之 事 業 事 申 之 事 也 候

元年地願。まゝに紙の續好店後  
少物に願之候とまゝに一村名敷  
りせし如きとて區形打續一村川  
少類の如く人取付田代。同業年  
比方直まの授り之類。之江流。右付  
那流。之。別。目。水。直。右。折。  
早損。一。次。少。負。付。少。成。之。甚。  
欲。直。之。何。年。之。直。一。一。之。直。又

少能仕年。願。之。信。来。少。類。何。同。  
分。之。意。一。一。章。之。別。肩。一。一。之。之。  
惠。之。之。解。之。之。候。之。之。信。之。之。之。  
貧。之。之。之。之。一。一。之。之。之。之。之。之。  
之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。  
百。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。  
少。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。  
之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。之。

種附の列しつゝいふに、  
百江の石を石連修の校傳成、  
并傳之由未だ知らざるに、  
殺す後指すも、  
物と評傳付し、  
又連く傳へ、  
新傳を校中、

新傳、自カレ之と云ふは、  
人々も地を伝へ、  
即ち役用し、  
也如川を、  
一、  
一、  
一、

因因以知之河内村

一高八拾九斗谷

是正部  
庄金

惣百姓

右庄金是正部河内村之農業為  
也所之限也又少村也此種貨米  
之農事也也也也也也也也也也

收教也何方日待を佛権を所長  
何中か集くつるはとも國人も家も人  
分限いともとも中一農事もいとも  
彼もせ道也酒をいおもいともい  
湯酒を合く小を二種を没る平日  
祥も何方農業也所之河内之也也  
何方河内也農業也所之河内之也  
いとも實人收丁一甲年舊次と一と金部



夫と世に可成る人にして庄屋の長閑なる者  
は有るに代はるべきなり

園圃園歌大園村

庄屋

深草

惣百姓

石大園村庄屋始村中農業の情

少く候はば又の有りかた知れ年々其難儀  
毎村言ふは少くも麦の秋は地村年  
事子とと收存自然の田代の自入の  
少くもとと年願とのしゆはとと自入の  
荒比田畑のしゆ——何中合畑方の業を  
種付業は又入代をせむ田畑肥一の業入  
種又と勿論はとと并是はとととと  
耕作入情は年々遠れとととと

入存、翌年、  
如情、  
いよ、  
お情、  
申年、  
程又、  
細及、

日國、

一、  
二、

南、

石、  
先、  
物、

後破後少之... 八物... 親族... 年... 准... 今... 自...

八物... 親... 今... 自... 八物... 年... 債... 債...

一... 中... 存... 各

國國... 部... 部... 部...

年六

...

右平之儀を母に存心し親女又の如  
くし年々如親類の内より女房に選  
びし母に守り得氣位母にのみ内より  
自らの妻女を平しく頂き女に如儀を  
之意と稱し瑞も取し自然と女房親  
戚縁くやしくる事よのいふこと意を  
縦女房部は女に如儀を頂き女  
に平しく如儀を喜むことよく母に女

下高仕より女房に如儀を母に如儀  
ゆはれし如儀をいふ女に一年と如儀  
に如儀母に一言如儀の内も如儀に  
たふし如儀を如儀に守り如儀に  
す如儀に如儀に如儀に如儀に如儀  
に如儀に如儀に如儀に如儀に如儀  
に如儀に如儀に如儀に如儀に如儀  
に如儀に如儀に如儀に如儀に如儀  
に如儀に如儀に如儀に如儀に如儀

又、此の能く... 一合... 石...  
 ... 後... 世... 十...  
 享和二年... 為... 位...  
 道... 母... 八... 歳... 文... 上... 業...

河内... 郡... 可... 權...

新...

...

石... 母... 存... 年... 院...  
 ... 年... 子... 實... 人...  
 ... 人... 如... 公... 積... 年...  
 ... 美... 父... 母... 子... 生... 仁... 年... 代... 長... 年...  
 ... 年... 年... 年... 年... 部... 部...  
 ... 年... 年... 年... 年... 年... 年...  
 ... 年... 年... 年... 年... 年... 年...



以女居

み人

あはれなき

石傳之... 又婦... 存...

田舎... 婦... 存... 例...





田の勿傷と付て子に以て新入奉りて存  
在農業上情仁候也追言可治り  
外持ししより其存り存和二年  
六月に備後員儀子計儀迄也

田圃田部村と坂下野所

又在馬

毎三格蔵

下又高の母と存りて其存り又高の母  
知りて高の父存りて其存り人  
皆井町女と存りて其存り  
又高の母と存りて其存り及成也  
田圃田部村と存りて其存り  
其存りて其存り  
其存りて其存り  
其存りて其存り  
其存りて其存り

但し、母に教へし止りて母に  
教へし止りて母に教へし止りて  
母に教へし止りて母に教へし止りて  
母に教へし止りて母に教へし止りて  
母に教へし止りて母に教へし止りて  
母に教へし止りて母に教へし止りて  
母に教へし止りて母に教へし止りて  
母に教へし止りて母に教へし止りて

日本国  
千二〇〇

右子、西後を母に存す、世に傳へし止りて  
母に教へし止りて母に教へし止りて  
母に教へし止りて母に教へし止りて  
母に教へし止りて母に教へし止りて  
母に教へし止りて母に教へし止りて  
母に教へし止りて母に教へし止りて  
母に教へし止りて母に教へし止りて  
母に教へし止りて母に教へし止りて

法目とてんじりかきお成海世と云ふは  
一向の頼りし身之御と云ふはよろこぶ事  
に身と女房と此迄老母と收存は  
お返すもはれ月言子おて子年正國慶  
英傳と御座るを母と云ふ事  
おまへ

田園日記の巻下

九月の事

おまへ  
おまへ

石の。後湖波可深なる名が嫁入り者  
又在る馬の長日産種酒を紅くして  
余と老母と子法三人とておまへ  
と云ふ年と云ふ病身とて云ふ年と云ふ事

一、市村銀作は九代将軍の御内膳  
之部也。其子として上水に頭取雜費  
多し。皆貧窮に陥りて居りしが、  
其子として又十六年己未又九代将軍の御  
に侍りて稱す。其子として又  
其子として稱す。其子として又  
其子として稱す。其子として又  
其子として稱す。其子として又  
其子として稱す。其子として又  
其子として稱す。其子として又

お成守子の御孫一、皇府を以て  
酒を飲所し利便を以て夜會、皆  
又、其子として稱す。其子として又  
其子として稱す。其子として又  
其子として稱す。其子として又  
其子として稱す。其子として又  
其子として稱す。其子として又  
其子として稱す。其子として又  
其子として稱す。其子として又

田舎田部村城下國司

介石齋  
あまのり

右介石の法と親と存りて結ばす  
此の法を令奥屋酒を以て持て実成  
よしとて又拾九と母に拾と余と  
多し存るは仁兩親の飲食に

用常の之理成り申す  
計りて此中存るは親と心  
初年しすは存りて  
麻能結ぶ海取別と家内和合  
存業すは結ぶと心  
統統結ぶ仁は存りて  
し存る存りて存りて  
結ぶ存りて存りて

おまへ

日國田村坂下町

利兵衛母

おん

おん

右婦人おまへと存心せしむるおまへおん

おまへおんおまへおんおまへおん

おまへおんおまへおんおまへおん

おまへおんおまへおんおまへおん

おまへおんおまへおんおまへおん

おまへおんおまへおんおまへおん

おまへおんおまへおんおまへおん

おまへおんおまへおんおまへおん

おまへおんおまへおんおまへおん

おまへおんおまへおんおまへおん

月乃一為如諒亦江之たふ唯  
多字少極の取町用とて以聽江左り  
と雖お送とてたふ好字如字年正月  
為應名以信子即後名とて一姑とて年  
光の二日月おとす

同國界河城下寄  
言右序

石有る事とてふ物、和業有る毎  
おとす村少んたふ下敷金取せ給  
九とて年可也た好、隨町台以大可  
利也久保町傳也何も、銀難成る  
河、重た格別、思統、高、流せ、業  
とて、好、治、と、年、あ、る、と、以、と、弟、城、夜  
も、う、り、給、と、中、好、金、業、と、教、授、せ、  
為、好、ま、と、送、金、取、年、取、り、亦、終、が、た、

者、是も家業を乞乞一分、無一、無二、  
買取、得て、紅、於、中、久、保、而、所、傳、也、  
一、と、切、少、と、由、親、と、主、持、人、  
更、之、人、官、行、不、石、會、之、弟、班、人、  
此、中、音、交、也、一、貴、父、之、人、  
其、是、酒、也、業、を、教、へ、所、持、也、  
中、道、之、者、は、村、守、和、平、年、一、月、  
藤、原、氏、信、子、武、後、是、也、一、

後、去、月、二、月、二、日、於、八、藏、也、

田園、田、村、城、上、町、所

有、四、将

町、之、由  
由、之、所、持、也

右、町、之、由、後、文、者、行、也、  
此、中、音、交、也、一、貴、父、之、人、  
其、是、酒、也、業、を、教、へ、所、持、也、



凡人、之能隣、玉、身、澤、と、病、為、之、養、費、  
頗、負、祿、仁、報、難、成、昔、之、法、以、其、食、  
之、而、之、忘、年、の、酒、を、好、む、毎、夜、  
也、酒、好、む、と、い、ふ、と、之、を、以、て、没、在、烟、垢、  
何、之、之、理、也、事、中、一、年、一、日、の、大、仁、之、意、又、  
之、也、之、者、之、法、之、法、也、世、に、之、を、以、て、  
中、之、文、之、の、由、委、曲、之、女、房、之、人、合、  
後、暇、乞、石、年、の、故、以、之、自、然、之、也、

膝、坐、町、田、之、心、必、以、德、存、行、也、  
遠、之、之、心、也、有、旨、和、字、年、之、日、也、  
在、其、弟、信、子、計、信、之、也、下、之、右、之、也、  
子、之、也、也、也、也、也、

國圖國勢新傳

一、高、三、拾、之、石

是、字、印

高、三、拾、之、石

右基で降級古父母の存り御安  
少少お礼な長き家下御用におも  
方、本年筆の字、筆さきにおめさ文  
半長の格位成るの儀、本年は書か  
る程成りおささくし、おめさ文  
うお首油増え、お扱は、おめさ文と  
今年、おめさ文の字、半長のおめさ文  
し、おめさ文の字、存り長は、おめさ文の字、  
おめさ文の字、存り長は、おめさ文の字、

おめさ文の字、存り長は、おめさ文の字、  
おめさ文の字、存り長は、おめさ文の字、  
おめさ文の字、存り長は、おめさ文の字、  
おめさ文の字、存り長は、おめさ文の字、  
おめさ文の字、存り長は、おめさ文の字、  
おめさ文の字、存り長は、おめさ文の字、  
おめさ文の字、存り長は、おめさ文の字、  
おめさ文の字、存り長は、おめさ文の字、  
おめさ文の字、存り長は、おめさ文の字、  
おめさ文の字、存り長は、おめさ文の字、  
おめさ文の字、存り長は、おめさ文の字、  
おめさ文の字、存り長は、おめさ文の字、

不其下序後古父母の存り無  
少時如兒女老ふ家下無別母  
方今年重のるに年古く女も老  
年重の母性成るに僅一十年の  
之に成り母も少くして母も  
方お月増えぬ母如くも老い  
入年一十年の老い母も少く  
十の母も少く存り母も自然

母如くも高に母如くも老い  
十年の母も老い母も少く  
母も少く母も少く母も少く  
母も少く母も少く母も少く  
母も少く母も少く母も少く  
母も少く母も少く母も少く  
母も少く母も少く母も少く  
母も少く母も少く母も少く  
母も少く母も少く母も少く  
母も少く母も少く母も少く  
母も少く母も少く母も少く



田園日記下村

一馬抄拾遺

新助

右新助田園農業公儀に任じ給ふ所  
也凡そ延仁年より和暦十一年迄  
高倉年及下村日々に耕作奉仕  
日暮と云ふ迄水田十一年直年  
下村付し一統賞次仁者禁水情

右邊云々  
延候子部儀  
中十

田園日記下村

又新

新助

右又新助一軒  
延候年  
延候年

新

少壯のとき七拾余りしか母とて年久家  
服病お煩行く医業を用ひぬ終  
拾ヶ年とあり自目も成り起振る  
心危しもの年未収なる言はれ  
り自他くものたはる日事す  
こころいひて死毎に自も  
仁はれ又病ゆき苦難す  
身持て自中たしめ自他と母

ふ高は時とて下し連心は江  
目有他はもこと他は  
磯高をわたり隣町に夜番と  
御し病ゆき母と衣食し物  
と為周る之厭毎夜家  
病子を頼む目とて一  
眠りし側は病ゆき  
心と磨くを病ゆき自中たしめ

食をわくは或は博く大に為は年酒母  
了らお育て家より母に先妻に二條の寛  
わく病を治す一ツ本又病は治すは  
自身に洗滌に深と進先相音ひ家  
今世に治す母ふと三月也果一ツ本  
存りて世に治すは文に二年  
三月高徳大信子部信は中下  
又病は母相果は治すは

日國は政壞不為良町

醫者

右膳

日人すら良

醫師

文平

右の人を母存りて世に治すは  
此れは知るべき大政商業に相成るべき

心持るるもあたまの懸念をなすは苦き事  
なほ此の心は紅白を母に河原渡りし時  
の外又と藤衣を母におくしけし夜は果  
てと取つての途巾をしおきけり根根系  
ゆき他人の事おぼえさるるも後世の紅白  
はちかき事母と親子を何し事とて思ふは  
仁らぬ心持は度なく候者心懸りて  
しはるる文化の事年高に候者信子誠信の

是より一石臨りて三月十日に成るる事

日圓四拾二日申付

法庵

六右衛門

組頭

新紙

惣百姓



右の如く先年特々進歩ありしが此年  
頗る困乏何故か流石に難儀に  
此の如く病に人々甚く悩む所  
村中も難病の類々ありて  
少くも病業と云ふ病有り  
少くも庄屋組頭より村  
長に及ぶ病或は年貢未  
納一々助合候より村長  
和熟より一庄小

取上候と云積り、  
三喜年正月高座炎  
庄屋組頭上信子  
と村中と錢と云

日圓田組取可

庄屋  
八二  
と云

石等。後拾子拾の上女抱仁候所



丁亥... 日... 候... 候... 候... 候... 候...  
若... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候...  
... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候...  
... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候...  
... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候...  
... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候...  
... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候...  
... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候...  
... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候...  
... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候...

分文化... 年... 正月... 高... 候... 候... 候... 候... 候...  
... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候...  
... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候...  
... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候...

日國... 部長... 所

長...

心...

...

石... 自... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候...  
... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候...  
... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候...  
... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候...  
... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候...  
... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候...  
... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候...  
... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候...  
... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候...  
... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候... 候...

又是の頃、後負、新改日、雇、海、世、紀、長、如  
十二年、以、兼、中、周、如、願、分、り、之、亦、計、医、系  
之、不、失、費、多、文、証、諸、因、窮、也、事、女、房  
後、之、千、之、色、と、改、罷、也、之、也、雇、所、付、賃、料  
之、大、食、物、を、同、收、分、地、是、雇、料、之、本  
雇、之、と、の、之、使、之、好、在、後、之、子、之、者、役、之  
所、之、後、亦、之、之、如、之、是、之、以、之、之、如、之、  
之、年、之、月、之、自、才、之、之、食、也、治、之、之、之、好

由、之、之、之、計、福、也、之、治、之、ま、之、之、之、之、之、  
女、房、如、代、之、之、雇、之、兼、之、之、之、之、之、  
如、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、  
是、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、  
為、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、  
亦、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、  
少、唱、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、  
情、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、之、

よは高人官物又古紙雜流とて予し昌夜  
因て一しよる亡く世深きを河夜身く  
大コ仁長ふら力若或は物言ては長はは  
病を仁又ハ強とてく常之又ハ糖飯を近  
しゆんて身し長他夜兼身大役ハ打更  
雜紙のハ官物一ハ時名紙と病物  
ゆし名起外ハ身中身大小使わし  
そを夜兼店ハ使目かおま又ハおと床

あををうつ場とてハ本は江籠物音  
ゆるまハ大ぬねハ員若ハ過ハ身是細  
之流ハ仁若施を收貫積ハ羽忠町  
市之書ハ一ハもの方ハ高仁米名市本  
日ハゆるわハ身積をきしお收彼を病  
しよるハたハ身思ハ員若ハ高仁米名市本  
町中一院次任ハ員若ハ細ハ通ハ  
ゆし文仁江所年ハ應員信ハ印信

一、此書之終、及年、也、

日圓回遊方市村

三、物、後、

一、言、也、

二、也、

三、也、

右之、く、後、者、業、也、情、并、也、物、也、

一、言、也、也、此、也、三、也、名、年、大、國、村、也、  
一、也、名、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
一、也、名、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
一、也、名、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
一、也、名、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
一、也、名、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
一、也、名、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
一、也、名、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
一、也、名、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
一、也、名、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
一、也、名、也、也、也、也、也、也、也、也、也、  
一、也、名、也、也、也、也、也、也、也、也、也、

おめいも又と去年又之冊以約と後  
乃々得お願致し一お京森送し言にお外  
舟村お年儀を信文漸お江蘇り如石屋  
此儀しと辰と勿偏所し年貢年下納力も  
之今と村と中ととま子と兄弟十五歳迄  
田八十の歳とおめ子儀與人お江蘇り  
と言お外お事とは板取お働り  
年貢年下と信文お納力村と信文お年儀

後此儀八十余とおめ常中と江蘇り  
おめ目と貴洞川過し喜及もそのた  
暇しお京森お身村とお計其上と貨  
お江蘇りしもの一お江蘇り  
お江蘇りしと隔しと怒しお江蘇り  
お江蘇りお情江蘇り又と江蘇り  
お江蘇りお田地と内と江蘇り  
お江蘇りお村方と江蘇り

水邊一うらむかか一右は首を指し  
河の隈に候かきとて一は文也  
心以爲存る候に候はるる

日田町下有明村

一三三三三三三三三三三三

三三三三三三三三三三

三三三三三三三三三三

右首を指候者其情を述べて  
おれり候事三三三三三三三三三三  
おれり候事三三三三三三三三三三  
江の隈に候かきとて一は文也  
心以爲存る候に候はるる  
三三三三三三三三三三  
三三三三三三三三三三  
三三三三三三三三三三  
三三三三三三三三三三  
三三三三三三三三三三



多所部拾分余子之能仁農業拓民信  
如展如法之能信一文化之正年正月  
為信民之信子之信民也

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

日國浦東部上水東

一信子之信

信子之信

右讀之弟按如少之母之信子之信  
之解之之信之信之信之信之信之信  
之信之信之信之信之信之信之信

於父母體中何所不中女居於一室也  
何處而一人之志也自然之清也  
之智如少子信之也母之愛也如  
之更心之體也法方園性神之居也  
多活法也母一之馬也  
途也之善居馬也之是也思也  
發有負之志也之善活也  
居別之志也之連也

竹新其介也  
伐後也  
之在也  
之也  
之也  
八月  
也

親父母膝か付し所、又中毎活ゆ一も  
体は肉の一人、ふしきも自然の清き神を  
之智知少し子信ともを母も、高きまは  
より更り、膝か付し所、園地神に居りたる  
事活ゆゆ母一、馬鹿といふは  
途も、し着居馬も、之を、ま思ひ母は  
脊負つる、色も、事活ゆ為、成る、事  
是、別、ふし、言も、陣、川、三、葉、町、一、市、日、

竹新、其、所、時、を、い、ま、あ、あ、あ、一、少、い、成  
代、後、水、の、い、ま、も、あ、あ、あ、一、合、年、一、活、ゆ  
事、は、水、牛、を、活、ゆ、事、は、水、牛、を、活、ゆ、事、  
し、は、水、牛、を、活、ゆ、事、は、水、牛、を、活、ゆ、事、  
之、は、水、牛、を、活、ゆ、事、は、水、牛、を、活、ゆ、事、  
八月、程、又、此、信、は、水、牛、を、活、ゆ、事、は、水、牛、を、活、ゆ、事、  
也、事、一、

後人母とて力有る人

# 日向郡三所村

夏 2016.5.20

一 向、ふて汁余

長久保  
ふしき

右もいぬると日向甚之場なる夏も情  
 なる子もぬれぬ親とりの高き春耕りしはた  
 光をふれよふもあがぬ南好自のケるぬれぬ

町をくも親と天切ぬ一河に流るる  
 の側にお郡のわらわぬ角ぬれぬ  
 爪のくわ中いとし町市場はあつた  
 小まふお洞も親とぬれぬはく少く  
 河をぬるる都はく才かしく日くお洞ぬれぬ  
 と親をよめる小江戸はく行はぬ洞ぬれぬ  
 といふは脚のと川ぬれぬ病身は脊有る  
 とあつたぬれぬとむしけ文をくおぬれぬ

痛痺を過ぐ又ハ是をを心能か何れは  
 早中ハ親の情を以て故を述ハ痛むるも  
 故を以て教とせしむ何れも母ハ文化五年  
 十月ハ如願すべし他ハもハ之を以て  
 五十年教目ハ報復ハ之願ハ夜意切  
 彼等病午日親とハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ  
 少々ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ  
 文化三年ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ

二年三月ハ父ハ母三年ハ母ハ

同國同姓同村

一七八七廿余

又ハ  
文政八年

又ハ七父ハ九年ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ  
 以テ如願すべし母ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ之ハ

系世母... 母曰... 何事... 内と... 能樂... 未を... 母中... 亦亦... 母と...  
系世母... 母曰... 何事... 内と... 能樂... 未を... 母中... 亦亦... 母と...

系世母... 母曰... 何事... 内と... 能樂... 未を... 母中... 亦亦... 母と...  
系世母... 母曰... 何事... 内と... 能樂... 未を... 母中... 亦亦... 母と...

系徒母... 事母日... 由親...  
... 何事... 不肖... 又...  
... 母... 罪... 由... 性...  
... 能... 夜... 母... 并...  
... 愛... 使... 寐... 信...  
... 又... 子... 信...  
... 夫... 親... 側... 附...  
... 故... 又... 入... 寐... 心...

... 福... 大... 父... 母...  
... 佛... 江... 因...  
... 母... 能... 生...  
... 夫... 自... 心... 又...  
... 母... 信... 國...  
... 又... 七... 食...  
... 母... 切... 親...  
... 又... 七... 每...

仁の心 孝人の心 射の心 必からぬ事 必からぬ事  
たつたし 射の文に 三年の日は 必からぬ事

仁の心 必からぬ事

仁の心 必からぬ事

仁の心 必からぬ事

仁の心 必からぬ事

仁の心 必からぬ事 仁の心 必からぬ事 仁の心 必からぬ事

自中にて 仁の心 必からぬ事 仁の心 必からぬ事 仁の心 必からぬ事  
市場にて 仁の心 必からぬ事 仁の心 必からぬ事 仁の心 必からぬ事  
仁の心 必からぬ事 仁の心 必からぬ事 仁の心 必からぬ事 仁の心 必からぬ事  
仁の心 必からぬ事 仁の心 必からぬ事 仁の心 必からぬ事 仁の心 必からぬ事  
仁の心 必からぬ事 仁の心 必からぬ事 仁の心 必からぬ事 仁の心 必からぬ事  
仁の心 必からぬ事 仁の心 必からぬ事 仁の心 必からぬ事 仁の心 必からぬ事  
仁の心 必からぬ事 仁の心 必からぬ事 仁の心 必からぬ事 仁の心 必からぬ事  
仁の心 必からぬ事 仁の心 必からぬ事 仁の心 必からぬ事 仁の心 必からぬ事



爲る田本よりわくの親しき地を日る  
様又稲刈りも早くも稲刈りかまるとい  
う多うおよい———の稲刈りも早くも  
を現の頃おとい———の稲刈りも早くも  
か———の稲刈りも早くも  
の稲刈りも早くも  
の稲刈りも早くも  
の稲刈りも早くも  
の稲刈りも早くも

之儀はききし母に今年も亦おあし

日國田知大別お村

二馬抄拾余

林氏

あつた

右得屋の父勤が爲つた大業———子信  
の所おあか會也———の所おあか會也  
———の所おあか會也

予不待其成而為之母の事は常  
小のころは母の調治を助ける  
酒を好む親族の介を以て  
酒を好む親族の介を以て  
酒を好む親族の介を以て  
酒を好む親族の介を以て  
酒を好む親族の介を以て  
酒を好む親族の介を以て  
酒を好む親族の介を以て  
酒を好む親族の介を以て

予の母は佛の如く日夜に  
ふたふたの寐を以て例に  
を以て故に自ら言ふ事  
母を以ての涙は母の涙  
母を以ての涙は母の涙  
母を以ての涙は母の涙  
母を以ての涙は母の涙  
母を以ての涙は母の涙  
母を以ての涙は母の涙  
母を以ての涙は母の涙  
母を以ての涙は母の涙  
母を以ての涙は母の涙

毎月の文化二年八月廿一日

因國書院刊本

新物  
shinbutsu

右様へ新由候存りしと申す事  
又新由代は拾五年に申す事

右の如く一代後之候。此より後  
是の如く存候事。但候。之江親類  
相果。返石新由候。親信候。候。  
此の如く申す事。定らる。旨。方。候。事。  
之。入。行。年。迄。候。事。一。迄。心。合。目。付。  
一。一。月。一。日。迄。候。事。申。上。事。候。事。  
一月。申。上。事。候。事。申。上。事。候。事。  
持。系。親。類。由。代。信。文。是。事。候。事。

お出でなすおはき候年方と云ふ事候  
之をいふゆゑ難文に候事にお候也  
親信又道にお出でなす事候  
号の御中へ達し候事にお出でなす事候  
親と云ふ事候事候事候事候事候  
お候事候事候事候事候事候事候  
お候事候事候事候事候事候事候  
波方にお出でなす事候事候事候事候

鳥居信玄公の御書文の御下

文化六己年  
己年  
肉蘇豊前守家  
三好内守

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

文化八年癸未年

孝沂奇特者紅潤書

十二月

三月

松平定宗

大分

豊前守領分

越後國蒲原郡

桃崎濱

又市

尚未完

右又市段取手高以渡海之氣道那凡  
類似同村宗所在取武人宗被取江上

子厥身命在躬奇特之者  
新出之付在凡山處又市成和方商賈  
渡世之者亦在凡山去年年七月  
因款新瀉湊不他國之運送之商  
積入出帆往來海之俄烈風  
引白小海荒荒沙力之高波頻  
枯力之者一防働之者  
戶江家高之復遠之海之途方甚

甚身命先死折物類以同村之  
和是又同河之帆亦既破和之  
呼拓以辨見之亦不悉何年助度思  
楫之者亦在凡山沖石遠隔岸  
大凡高波以之隱楫之業之遠延自中  
那成自白之帆亦危之高波  
為之借之破和之在凡山好同村  
之者亦死命之見之捨之好

又市成水主... 命命之海中... 搜...  
 之... 乃... 惜... 乃... 乃... 乃...  
 清... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
 後... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
 又... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

因國若和部  
 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

尚末七拾歲

右... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...



承而之有行又進之其術未以爲  
右越邊之本家指之部と申者有  
先年部病の家因之病死後の身  
也今も身志之本家右續内野  
知雅の所友いし世承新成の事  
之い勿論農業も指して右  
本家と申付成る之爲時及野  
耕代禁多し時節も爲指之部

夫婦よりもの先之目く野田は在  
信又在完之節、新来い勿論知り  
子大一人の世承如史くは手當と申  
手透と見合夜はの、業指と  
用之切、首成十年負收納  
時良と申明、はる、新成  
稲指、事あり、こゝ、形、勿、仕、年  
との、優り、小、備、故、指、之、前、史、婦、者、也

右准  
右廟  
百姓  
不特  
因二月

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

同國蒲原郡

小園村

奥在邊村

幸藏

尚末

右幸親  
承而

同人儼見才之人有之而由人其棄  
尚何事人言其耕作等哉以兼以舟  
去分秋之六月根葉月江中求其  
與海と打終し助口志未著以極難那  
し有少症以如父鼻蓋海下厚若否  
そ一母之拾年斗以亦病死仁  
之後以父父上と尚巨細し處  
二十年治心亦與在處眼病古様程

瘰癧若加其全枝と江次盲目  
女中後起則由次と通ひと人  
今しるるを毎一葉もも至夜止息  
女抱仕夜分常と不解父と側對踏  
為起則と常り多後河地方と江  
女神の向も至市あ度至後由度体  
障の宿元と女何親と様場と伺目  
終すの示り極為様成は江履の先

信那内河... 味是物持席...  
又... 由信那... 自乃... 小者... 常... 個...  
為... 自... 軒... 夏... 物... 乃... 產... 食...  
色... 始... 親... 自... 目... 正... 乃... 善... 乃... 而... 乃... 乃...  
余... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
五... 乃... 親... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

丁... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
見... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

西竟幸就公 午齒方足者 達志  
 子在以之 亦受乃之 以事 年  
 夫之自見 智自 然之 誠實 和  
 村肉之 更言 膝痛 市也 出 古  
 菊端 身之 高 是 孝 心 之 空 廣 正  
 古遠 古 亦 乃 身 高 末 年 以 月 為 獲 矣  
 侯子 亦 侯 乃 亦 矣 一 日

田圃之傍部

山田村

古遠乃女房

抄也

書末四拾四歲

一高四斗谷

右抄也 誠老母 孝心 至 一 日  
 御也 役人 亦 由 以 身 尚 又 進 一 日

在江戶不同人成拾七八十年家母  
小治所家後妻也或云如進之負病  
仕家屋浦大常拂古處成拾六年  
心茶風之家出仕行儀古知事也  
和母并女也或云如女子也或云如  
男子也合口人信完仕和重也或云  
和也或極國籍之或也母也或云  
或同一人重也信實同履也或云

草鞋也或云和母重也或云  
仕總部古重也或云太右衛門家出後  
老母也或云困窮之或也或云  
和也或云重夜之油也或云和  
也或云長也或云和也或云  
人重也或云九年也或云終也或云  
買也或云仕也或云也或云  
也或云也或云也或云也或云

獲取法は目我や市場亦にお紙  
時宜くは産上の困窮を以てお個  
未だ母に為候は年々未だ  
年月経刻に高にゆ海夜を  
以ては毎夜十浦杯の寧に  
少破の紙を以て紙を以て  
少破の紙も大造に  
自由の世に花を  
自由の世に花を

少破の紙も大造に  
自由の世に花を  
自由の世に花を  
自由の世に花を  
自由の世に花を  
自由の世に花を  
自由の世に花を  
自由の世に花を  
自由の世に花を  
自由の世に花を

長壽清方以方子法內之人  
亦新級下法以智為人  
差在是是是也一有也母  
好娘貧窮中坐少一長款  
支度及仕長壽清方也  
中一以也也也也也也也也  
也也也也也也也也也也也  
也也也也也也也也也也也  
也也也也也也也也也也也  
也也也也也也也也也也也  
也也也也也也也也也也也

與家切一日也也也也也  
親教也也也也也也也也也  
也也也也也也也也也也也  
也也也也也也也也也也也  
也也也也也也也也也也也  
也也也也也也也也也也也  
也也也也也也也也也也也  
也也也也也也也也也也也  
也也也也也也也也也也也  
也也也也也也也也也也也  
也也也也也也也也也也也  
也也也也也也也也也也也



新成甘肅一息也... 德子... 尚未年... 德子... 德子...

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

昔前旨願分中... 去巳年... 尚未年... 通...

十二月  
三好内在

内者昔前旨願分中

Handwritten text on the right page, appearing as bleed-through from the reverse side. The characters are faint and difficult to decipher but seem to follow a similar structure to the text on the left page.

越後國之礪波郡

右津村百姓

作書者依平次事

一打言田圖六石七斗五升

未平年

右言此依市村石三石七斗五升依平次方嫁以机  
男作書者八拾余石机極貧窮于上事依平次  
公厚大切之石投家内六人五石机極貧窮于上事依平次  
病身者較較世為机占此言人之農業業相標也  
元始末以屋于外村方者病氣未之農業業後也

有之皆其自不之難況也も不厭被る傳化人へ  
助る也亦一神孝家持身文化六己年三月十日  
為慶賀未三儀を遣ふ

同國同郡同村百姓

一五田

七席古馬

未三平九才

右七席古馬儀父七席古馬十一年以家病死仕母之  
六年以家病死仕母長病存身自其作農農業  
之方至夜言自其孝公死極其上謝法儀被極矣  
窮以得方一村内農農業儀上其五之儀之自分へ

難況也も不厭被る傳化人へ助る也亦一神孝家持身  
文化六己年三月十日為慶賀未三儀を遣ふ

同國同郡同村百姓

榎澤村百姓

三九儀

未三平九才

一五田

右三九儀儀父三九儀六己年以家病死仕母有侍其  
孫其母死仕母之儀極矣窮之中言孝公之儀被  
妻未三平九才母養育之儀不但此處之上母へ

者亦不付在之幸勞之甚也此之及年輩者之  
獨身之在在如云妻之有之會也衣類洗濯却白  
母之及難保之上農業之妨也如之有之村之老  
再三利害中少少漸事之川運航妻候之回老之  
形之俱之序考之農業之世作交之百之之秋  
母之例之不離之百以較之抱家内之老姑未  
他人之交未甚之等矣如考之文化六己年十月  
七日為喪事之本以儀之儀也

同國同郡武石村石野

石野 末子三子

一 指之田園其之石野村石野

右 石野村石野父之孫也十三年以前病死仕之為時七按茶  
余之母好生之有之如極貧窮之渡世之甚以難保之  
以好費之難母之不相見候之五按母病身之不安行  
寢起亦不自由之如農業之有之自今之昔之不厭  
至夜夜之抱食事中之好也妻之公底且老之程更  
母養育之如妻之好也中形之在程之公底之他人之交未  
等實成考之文化六己年十月十七日為喪事之本以儀  
以遺也

右之文化六己年書上之按考之奇物之喪事  
以之在者書面之通出之在也

十一月十六日

井俸云松浦宗家  
清水乃在境

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

一 持言或石斗比林卷部

傳次在島

寅巳控方力

井俸云松浦宗家

當時松平令之助松浦領不

新設國魚派郡持那村店為

右傳次為儀父管領之弟政三其年正月病死仕作  
管領處存生之弟不方畫考公其上母之去其永  
三年其子之是之弟叶病氣之為其猶父考養以狀  
其外病身之兄弟共有之其以抱之其不及自余  
考以考特身考政六其年八月乃獲身未之復其養  
其後村惣云

作身松平令之助様御讀不之由

右者寛政三戌年書上旨以後者仍奇特身褒美  
名義古書面一通此度作上

十二月廿七日

井伊云次郎補左衛門  
清水為右衛門

BOOK 11



